

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200514		
法人名	有限会社ケアホームサポート		
事業所名	ケアホーム のあ		
所在地	静岡県静岡市駿河区下島261-1		
自己評価作成日	平成25年7月7日	評価結果市町村受理日	平成25年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&JigyosvoCd=2274200514-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvoCd=2274200514-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年7月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居心地のよい、ぬくもり溢れる光の中で、楽しい時間をいつまでもゆったりと生活していただく。業務中心ではなく、ご利用者様中心の介護が行えるよう日々努めております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年4回行われる「のあレストラン」は職員と入居者で食事の準備などをして家族を招待し、家族が来られない入居者も一緒に和気藹々と過して、駐車場では入居者が作った小物のバザーを開いて地域の人達との交流の機会にしている。管理者は入居者の残存機能を把握し「やってくれるとありがたい」と依頼し、出来ることでしっかりしてきていて、入居者が職員の様子を気遣い心配をしてくれる家庭的なやり取りが見受けられるようになった。月2回、定期と予告なしの避難訓練を入居者と共に行っていて、月1回は防災担当の職員が消防署に出向いて訓練の報告をし情報やアドバイスを受けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に掲示し、事業所内で共有し、周知と実践に努めている。	開設時に代表者が作った「明るく・楽しく・和をもって」の理念は居間の壁に貼ってあり、新人オリエンテーションにて説明をしている。月1回、のあ会議で意識付けをしていて、職員、入居者にも浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事にはご入居様と共に積極的に参加をしている。また、地域に向けてのイベントを発信したり、ボランティア活動に来て頂いたり、相互交流が行われている。	何年も前から犬の散歩時に立ち寄ってくれる方がいる。2か月に1回草取り、年2、3回消火器訓練等地域の行事に入居者と一緒に参加している。のあ通信を回覧板で地域の54軒へ配っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせを頂いた場合には事業所にて相談を行っている。また、年4回の、のあ通信の発行をし、地域の方に施設の様子を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を実施している。地域包括、地域住民、ご家族様への活動報告や話し合いを行う中で、地域の中のケアホームのあを確立していけるよう努めている。	定期的開催されている。町内会長、副会長、両隣の住民、家族、入居者の参加はあるが、市や地域包括支援センターの参加が少なく、報告が主になり議題が限られている。	行政に参加を呼びかけ、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題などを話し合い、地域の理解と支援を得るために働きかけていく取り組みにを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	届け出等がある場合のみならず、行政に対しての質問事項等も、極力担当部署に出向き連携を深める取り組みを行っている。	生活保護の方の受け入れを行っており、市の支援課には2日に1度は出向いて相談や報告をしている。行政、地域包括支援センター等へ運営推進会議の議事録をFAXしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは至極当たり前の行為として周知・実践されている。今後も、多くの研修等に参加し理解を深めていけるよう努めたい。	玄関の施錠はなく、カウベルを戸につけている。外部研修に参加した内容を全員に周知できるように発表は2回行っている。管理者は職員に不適切な対応が見られた時は、個々に注意や指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底もされており、虐待防止は至極当たり前の事として、周知、実践されている。今後も多くの研修に参加し理解をふかめていけるよう努めたい。		

静岡県(ケアホーム のあ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されているご入居様もおり、管理者は理解しているが、制度を学ぶ機会が準備できず、全ての職員にまでは周知をされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明時間が不十分な点は今後、改善課題である。解約や改定等の際はご理解を頂ける説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、のあレストラン、来設時などに近況報告の中、ご意見や苦情等を聴取し、運営に反映させるようにしている。	入居者が担当職員に伝えた要望等は、のあ会議で検討して計画し実施している。家族から誕生会の写真や普段の様子を知りたいという要望があり、担当職員が手紙で知らせるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・のあ会議・担当会議などの各会議を通じて職員の意見や提案を発信できる機会設け反映させている。	職員が休憩をしたり面談ができる場所ができたことで会議以外でも随時に相談や意見を聞いている。業務ノートを活用して、物品の購入や、介護の仕方について皆で意見を出し合い講習会を開いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所は各種制度や業務改善を通じ、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度を通して計画的に研修に参加できている。働きながらの疑問点等は、実技等の講習会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	駿河区GH会交流会に参加し定期的に情報交換をはかり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お申込み前にご見学して頂き、ご本人様のご要望や昔のお話等をお聞きし、安心してお過ごし頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お申込み前になるべくご見学して頂き、ご家族様のご要望や、ご本人様の経過・状況などの情報を十分確認した上で、安心してお任せ頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お申込み前に、なるべくご見学して頂き、ご本人様の経過・状況等の十分確認した上でご提案するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を大切にし、ご本人様の残存能力に合わせた家事活動等を心掛けており、日常の会話等でコミュニケーションをとり、家族的な関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来設された際は、明るいお声掛けに努め、近況報告を通じてコミュニケーションを図る事で良好な関係性を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にお越し頂きやすい穏やかな空間作りを心かけている。また、ご入居様にもよるが、馴染みの人が来設される機会も増えてきている。	以前勤めていた職員が赤ちゃんを連れて訪ねてくる。年2回家族・友人にはがきを出す支援をしている。入居期間が長くなり一緒にいる入居者や職員が馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居様同士の相性を考慮した座席配置を行い、職員も間に入りながら孤立しないよう支援を行っている。また、ご入居様同士が良好な人間関係を築いていけるよう努めている。		

静岡県(ケアホーム のあ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も暑中見舞いや年賀状を送ったりして関係性を大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居様に担当職員をつけさせて頂き、日常の関わりの中でご本人様の意向や思いを把握できるようにしている。また、ご家族様のご意見・情報からご本人様のご希望に結びつけるよう努めている。	担当の職員が主に話を聞いている。足湯に行きたい希望があり業務ノートに記入して、計画書を作成し、のあ会議にかけて行事担当職員とも話し合いをして実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式等で、ご入居様の情報把握、共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・バイタルチェック表等を用い、ご入居様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には、サービス担当者会議の中でご入居様の現状を話し合い、それに即した介護計画となるよう努めている。	3～6ヶ月ごと、又は状態に変化があった時に見直しをしている。家族に声をかけ、来られない場合は家族会などで意見を聞き、医師、看護師の意見を反映した計画書を作成している。家族には面会時や電話で説明をし、確認を取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はパソコンへ日常の様子や、気づいた点等をできるだけ細かく入力するよう努めており、誰が見ても現状がわかるような記録作りに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体操や、各レクリエーションや行事に参加して頂く等、柔軟なサービス提案に努めている。		

静岡県(ケアホーム のあ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店やスーパー等を利用する等、地域と密着したより良い暮らしになるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へはご家族様付き添いのもと受診を行い、体調に変化があった場合は、医師や看護師に相談し敏速な対応に努めている。	入居時に説明をし全員が協力医に変更している。他科も含め受診には家族が付き添い、その際バイタルなどの情報をパソコンからプリントして渡している。困難な場合は職員が付き添い結果を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録や訪問看護時に相談する事でそれぞれのご入居様が適切な受信、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報や相談はご家族様との連絡を密にしている。職員が見舞いの際に状況把握を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りの指針をもち、ご家族様との話し合いのもと、看取り介護を実践した。	入居時に事業所の方針を説明し、同意書をもって、重度化した場合には家族の希望によって職員に周知し、研修を行い看取りをしている。入居者は職員と一緒に病院へ見舞いに行ったり部屋の様子を見に行くなど気遣い、関わっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアル化し、統一を図っている。会議等で周知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル整備や定期的な訓練の実施、また地域の防災訓練にも参加する等、周知に努めている。地域との十分な協力体制は、まだまだ時間が必要である。	毎月2回定期と予告なしに火事、地震、津波の避難訓練をしている。火事を想定し、ヘルメットと口押さえを部屋に取りに行く→玄関→公園までの時間を測る避難訓練をしている。運営推進会議で町内会と話し合いを重ね、地域との協力体制に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に寄り添うケアやプライバシーを損ねない言葉かけや対応はとて大切にしている。接遇研修に参加する等、常に確認、徹底を図っている。	職員は自然な声かけをしていて穏やかに接している。のあ通信などに写真を掲載する同意書は頂いている。トイレ誘導などで不適切な対応に気づいたときは管理者からその都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居様ご本人の希望が優先されるよう働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように心がけ、日々の生活がご入居様の希望・ペースに沿ったものになるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意思を尊重した身だしなみやお洒落ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とご入居様がメニューの決定から、食材調達、片付け等一緒に行えるよう心がけている。また、誕生日には、外食やプレゼント等、楽しんで頂けるような支援を行っている。	週2回食材の買い物に入居者と行っている。入居者の希望を聞き、献立を考えて3食共職員の手作りである。お盆拭きやお絞りを巻く等出来る方が参加している。職員も一緒にテーブルを囲み同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居様の状態に合わせて、刻み食やミキサー食等の対応を行っている。また、お好みに応じた飲み物等を用意する等で水分確保の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれのご入居様の状況に合わせた口腔ケアの提供に努めている。		

静岡県(ケアホーム のあ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、有効な声かけのもとトイレでの排泄ができるよう支援を行っている。	ほぼ半数の方が自立していて、残りの方も誘導によりトイレで排泄が出来ている。入居したばかりで夜間のみおむつを使用する方の適切な支援について、職員がアイデアを出し合い検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・バナナや水分摂取、また、腹部のマッサージ、廊下歩行運動などの便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後問わず、入浴可能な環境を提供しており、ご入居様の入浴習慣に沿うよう努めている。	希望にそって入浴できるように支援して、最低でも2日に1回は入浴してもらっている。水に触れるのが嫌いで拒む方は段階を踏みながらシャワー浴まで誘導している。同性介助を希望し職員の勤務体制を見て入浴日を決める方がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居様の体調を考慮した室温調整や、眠れない方には温かいお飲み物や、傍で寄り添ってお話を聞く等をして、安心して気持ちよく眠って頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、情報の周知・徹底に努め、服薬後のWチェックで確認を徹底した環境の中、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや行事の参加、また、希望外出や喫煙管理等に努め、役割・楽しみごとの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物や季節ごとのドライブ等、ご入居様の体調を考慮しながら外出できるよう支援を行っている。	天候を見て、公園の散歩や庭での日光浴、車いすの方を入居者が押して家庭菜園に行ったり、食材やタバコを職員と一緒に買いに出かける等外の空気に触れる機会を作るよう努めている。足湯、花見、鯉のぼりを見に行くドライブ等計画し実施している。	

静岡県(ケアホーム のあ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は必ず職員が付き添っている。金銭管理は管理者が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等は、ご家族様のご希望に応じて対応できるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く、静かな空間であり、季節に応じたお花、イベント等で撮った写真を掲示する等居心地の良い空間作りに努めている。	玄関から続く食堂やキッチン、廊下などの共用部は段差がなくゆったりとした空間になっていて、高い天井にある明り取りの採光はカーテンで調節している。玄関、居間等に庭で育てた季節の生花が飾られている。トイレの壁1面に茶殻を乾かして作った手作りの消臭袋が掛けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにある、窓際のソファや大きなテレビが見やすいお席にて、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際にご本人様の使い慣れた馴染みの家具や思い出品を持ち込んで頂き、ご本人様が居心地良く過ごせる工夫をしています。	各居室にはベッド、椅子、整理ダンスが備えられている。自宅から使い慣れた筆筒や洋服かけなど馴染みの物が持込まれ、家族の写真や金魚の折り紙を飾ったりその方らしい居室になっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレの表札や、手すりの設置等、安全な環境作りと、残存能力の維持を考慮し、ご自身で出来る事はなるべくご自身で行って頂くような声かけ等に努めている。		